

第21号:通算71号
(4月号)
2019年4月1日

七里が丘子ども若者支援研究所

今を生きようみんな OK!

今日はステキな機会を頂き有難うございました。子育てで葛藤している親御さんの励みになる素晴らしい会で、身にしみるお話をたくさん聞くことが出来ました。モヤさま放送から半年、「絆〜ず」によるコンサートが実現した!! 佐藤哲さん(Bass)、松浦賢二(Drums)との演奏も楽しかったです! (facebook ♡ 岩河亜希子さん ♡)



♡ Jazz piano 親と子の絆きっとつながる

3月22日(金)18:30 in はまゆう会館、ご来場の皆様へ御礼申し上げます。年度末の気忙しいFriday Night 約222名の方々にゆったりとした歌と演奏と書そしてトークの2時間弱をお過ごしいただきました。鎌倉市長松尾崇様からもメッセージ、お心を頂きました。

争いを好まず、正しく地道な努力、心優しい母親思いの青年に

♡ 高比良和枝さん:秀一さん母 ♡

コンサート当日は春の陽射しと風を感じられる穏やかな朝でした。会場入りはpm 1:00、準備に取りかかりそれぞれが皆成功させたいという思いのもと、自分の持てる力を注いで結果納得の出来るフィナーレを迎えられたのではないかと思います。

秀一に関して言えば、2月から職場での関係が上手くいかず睡眠不足の状態が続いていたので、心の安定を一番に考えて過ごす日々でした。本番では落ち着いていて、楽しそうに彼らしいパフォーマンスが出来ていたことに感動しました。とても嬉しかったです。一緒に演奏する機会があるドラムの松浦賢二さん、ベースの佐藤哲さんがバックでしっかり支えてくださっていたし、何より城田有子(秀一さんピアノの先生、プロミュージシャン)さんがそばに居てくれたことが大きかったんだと、思い返す度に確信します。無駄な指示が1つもなく母親の私では出来ないことだなあと、プロの仕事を見せられた気が致しました。音響の方にも 曲がいいね!! ピアノもいいね!! 仕事をしていて楽しいよ♪と評価してもらったのが思いもかけないサプライズでした。



秀一にとってはじめてのデュエットを山下直子さんとご一緒できたことがビックリでしたし、彼が一番嬉しかったのでしょう。とても大切に気持ちを入れて歌っていました。コンサートに来て下さった先生は、おとなになった彼が母を思う曲を歌っている姿に涙を流して下さいました。ある方は秀一がピアノを続けていることに刺激を受けレッスンを始めたことを伝えてくれました。彼を通じて沢山の人の人に出会い力をもらいました、苦難のときどれだけ助けられたことでしょうか。温かくて大きな愛で繋がって来ました、お陰様で秀一は争いを好まず、常に正しくありたいと地道な努力を惜しまない、心優しい母親思いの青年になりました。自分らしく生きることの大切さを貫いて、回りをハッピーにする表現を目指して欲しいと思っています。

♡山下直子さん♡「このような形で参加させて頂き光栄でした。高比良秀一さんも堂々としたパフォーマンスで素晴らしかったですね。西野博之先生(NPO 法人たまりば理事長)と交友のある滝田さんと対面できたことも、息子にとって良い出会いだったのでは、と感謝しています。」(Messenger より)



♡長谷川ひろみさん♡「絆〜ず♡コンサート」大成功でした。私が10年前に作詞作曲した曲「生きる！」直子さんとあきちゃんによって夢の実現!!!私の夢が一つ叶いました♪皆で紅白!目指すぞ〜〜(笑)☺(facebook)



秀一さんピアノの出会い 私は司会記念日♡田中幸子さん♡

笑顔でコンサートを終えることができホッとしています。ステージで披露された方々、多くのサポートの方々、本当にお疲れ様でした。初司会、緊張しながらも楽しみながらできました。なにしろステージを特等席で鑑賞できる一番の観客のようでした。当日は町内のカラオケサークルのお姉様方(平均年齢80才位?)にお越し頂きました。



翌日お礼を伝えに行きますと「楽しくてあっという間の時間だった」「また機会があれば声をかけて」と嬉しい言葉を頂戴しました。その中にはご子息の障害で苦悩なさっていた方がいらしたそうで、涙しながらステージをご覧にな



っていたそうです。また若い頃の同僚も足を運んでくれました。障害を持つ子ども達の学童のお手伝いをしているとのことでした。前夜のイチロー選手引退会見の言葉“自分が熱中できるもの、夢中になれるものを見つける。色々なことにトライして好きなことを見つけて欲しい”と。秀一君、好きなくピ

ノ>と出会って良かったですね。コンサートで「緊張した?」と聞いたら、「集中した」って答え印象的でした。私も初司会にトライした記念日となりました。

家族は小さな社会 揺らぐことあっても一人じゃない

♡川辺順子さん♡ 歌とピアノと書道とお話の、なかなかないコラボのイベントは、心がほんわかする素敵な会になったと思い、とても楽しかったです。それぞれ



出演者の方々のパフォーマンスは素晴らしく、一番小さい社会である家族の絆は、時に揺らぐことがあってもきつとつながる、一人じゃない、生きる幸せを感じてというメッセージは伝わったと思います。横須賀応援団会議は、それぞれの活動の場でということで寂しい気がいたしますが、これからも、ささやかですが、自分の生きてきた経験をもとに活動に参加していけたらと思います。

改めて問います 子どもと親の育ちを愛おしむ地域社会を

家庭は居場所、親子は信頼。一人親や養子や里親家族も。生きてる幸せ、生きてく未来、それが家庭や家庭でありたい。でも、親子は近いからこそ間(魔)もある。一人で抱え込まず、育み包み込む地域で、共に！と。



例えば虐待、親の「家庭教育」責任⇒“しつけ”義務⇒暴言暴力という構造の結果ではないでしょうか？ 子育てを「家庭教育責任」に追い込む国家社会の悪意があります。子ども支援、子育て親支援は自然権であり社会保障です。

例えば不登校、社会的ひきこもり、発達障害、非行の子どもの混乱状態を、親の“甘やかし”責任⇒「わがままな子が育つ」との悪しき構造(世間体も…)のあやまち。教育権や労働権を「親の責任」に押しつけ、国家社会の責務を負わない背景があります。教育や労働は、子どもの未来を拓く尊厳であり人権保障です。

分断され自己責任に追い込まれた親子は対立へ、責め合い暴言暴力一過保護過干渉をエスカレートさせ、国家社会の代理戦争を家庭が担ってしまうのではないのでしょうか。

家庭は居場所、親子は信頼のセーフティーネットでありたいと思います。生きてる幸せ、生きてく未来、それが家族であり家庭。それを地域が支える、包み込む地域を願います。

横須賀応援団会議は4月14日(日)で区切りをつけ、若者たちが後継を宣言していきます。6年間の活動へのご支援ご協力に感謝申し上げます。宜しければ午後2時、横須賀市民活動サポートセンターへお集まりください。(滝田衛) ※写真8枚提供は川辺悟史さん(会員)

コラム風 テーマ“進路を拓く” 不登校経験者が語り始める時代へ

2014年から5年連続の小田原市不登校講演会、今年は1月26日(土)「進路を拓く 自分らしい生き方を求めて」をテーマに行われた。前半が僕の講演、後半が不登校経験者の20歳前後の大学生女子、福祉職員 & 就活中男子と母親1人計4人と僕が語り合いました。経験者が語り始める時代、支援者を超える現実が生まれています。29名の感想をスタッフの方がまとめお送りいただいた。お礼を兼ねていくつかを紹介いたします。



- <保護者の方>
- 子どもが思っていることを感じられ今の(不登校)状況に納得ができました。
 - 自分の息子の状況と比較して、今のやり方で問題ないと感じました。むしろ、それを心配する親(母親)がプレッシャーになっていることが改善していくことだと感じています。
 - 若者たちの生の声が聞けて、とても参考になりました。彼らの言葉の一つ一つを、今、これから我が子に対峙するのに役立てたい。
 - ゲームをやっている理由の一端が若い人の言葉で語られ少し理解できたような気がします。

現代課題 認識しにくい 分析線

○社会背景 異国・価値・家族

○教育制度 学力・塾・学習・早稲教育

○コミュニケーション 言葉 発達障害

○文化 11ヶ国で学ぶ 多文化理解 異文化理解

○思考 現象と 手段としての「不登校」

結果としての 不登校・社会的ひきこもり いじめ

○2017(平成28)年の小中高生学校へ行っていない児童
小中高生総数(特別支援) 全国217,650(前年220,293)人 神奈川県15,947人
不登校はさらに増加 全国146,631(135,683)人 神奈川県9,990人

神奈川県11,685人 小3,222人 中6,463人
全国 49,963(49,963)人 神奈川県 2,737人
東京都 49,963(49,963)人 神奈川県 2,737人
合計 38,449(38,449)人 5,357人

○自死 250,945人 不登校 中 184人 累計 169人
○いじめ 416,376(422,143)件 神奈川県19,997(19,975)件
○社会的ひきこもり 2016年: 54万人、2010年: 702人

<教職員の方>・実際に不登校だった人から聞く話は心に響きます。ありがとうございました。

○その気持ちは、最終的に当事者しかわからないと思います。経験や体験がなければ、なおさらそうだと思います。しかしながら、寄り添おうと思う気持ちが大切だと思います。どこまで寄り添えるか、個によって違いますが、それも個性ととらえ、みんなを認め合える、そんな人間を育てていくことが大切なのかなと感じました。

- 普通や当たり前、理想で子どもを見るのではなく、その子自身を見るのが大切と思った。
- 経験者の声、本当に心にささり、明日からの活力になります。ありがとうございました。
- 第一部の講演会では、滝田さんのお話の中でたくさんのパワーワードをいただけたと思います。日頃、子どもたちにかかわる中で、どうしても子どもの思いを聞き出そう、語ってほしいとさしおけてしまう所もあるように思い、反省しました。また、保護者の姿勢を問うてしまったり、「もっと親らしくしてほしい」と求めてしまう気持ちもありましたが、「大人」として考えた時には、支援者として私自身も大人の色を示さなければいけないのだと改めて感じました。「こどもが生きようとするモデル」という言葉はとても強い言葉だと感じました。第二部の座談会では、経験者の皆さんの言葉にグサツときたり、ハッとしたり…。「ゲーム・ネットは今の子の居場所(遊び場)」確かに、と思いました。明確な理由(たとえば、学校のいじめ等)のない不登校の子どもへの支援においては、寛容さ、気長な姿勢、多様な支援メニューの提供が必要なのだな…と理解しました。貴重なお話をありがとうございました。<SSWのお仕事の方>
- 座談会でお話くださった皆さんが各々自分が歩いてきた道をあまり悔やむことなく未来に向かって歩きはじめている姿を見て、聞いてよかったです。また、不登校の時の気持ちや周りの声掛けの難しさなど考えさせられました。3人の方はすごい！とてもいいアドバイスです！本当にありがとうございました。<主任児童委員の方>

それぞれの風

おめでとうございます

楠の木学園25周年、偉業です♡ 学校



へ行かない子どもたち、発達障がいの子もたちへの先駆的な民間教育、NPOの先人的実践です。武藤啓司さん等の積み上げたものは神奈川の誇りです。楠の木学園記念のつどい、卒園生や在校生・保護者があふれ、

神奈川県の子ども支援関係者でいっぱいでした。子どもの未来サポートオフィス:米田佐知子さん「立ち話が、近況交換・情報交換であり、今後にやりたいことの芽だったり。立ち話の最後に、楠の木学園の武藤啓司さん、加藤彰彦さんと、西野博之さん、滝田衛さんでパチリ。」と。素敵な出会いに感謝し、祝賀パーティーでも武藤啓司さんにご紹介され僕はスピーチ(笑)させて頂きました。帰りは加藤彰彦さんと地



下鉄戸塚までご一緒し、歓談♡ 人間味溢れる加藤さんの凄さを再確認した一時でした。

4月予定 ○13日(土)9:30講演会「ひきこもり支援とは」in 横浜市西区フクシア by よこはまチャイルドライン ○14日(日)14:00横須賀応援団会議 in 横須賀市民活動サポートセンター ○28(日)12:00逗子応援団会議 ひきこもり発信プロジェクト&ゆずり葉の会 in 逗子市民交流センター
○研究所開催日 8・15・22日(月) ○鎌倉市相談員 2・5・9・10・12・16・19・23・24・26日

速報 5月26日(日) かながわボランティア基金21事業受託記念「西野博之さん講演会 & 滝田対談 in 建長寺」鎌倉あそび基地フリースクールLargo、七里が丘こども若者支援研究所共催
【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>
●応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>